

# 瞳輝いて



やまもと ゆうじ  
山本 勇治 くん  
(笠岡工業高校 3年)

山本くんは3月27日に香川県多度津町で開催された第19回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会の男子62kg級において見事優勝されました。

ウエイトリフティングを始めたのは、高校入学時に友達に誘われたことがきっかけで、入部当初は、練習がきつく大変だなと思ったそうです。

しかし、今では日曜日を除く毎日3時間の厳しい練習にも慣れ、全国大会で常にトップレベルの成績が出せる選手となりました。

よい成績を出す秘訣をたずねると、「いつも試合をイメージして練習に取り組むことです」と少し照れながら話してくれました。

今後の目標は、「インターハイと国体でも優勝し、高校3冠を取ること」だそうです。

いつもの練習の成果が出せれば、きっと目標が達成できるはず。夢に向かってがんばれ!

## 展覧会のご案内

特別展「佐伯祐三と同時代の画家たち  
-和歌山県立近代美術館所蔵品による-」  
6月12日(土)~7月19日(祝)

6月13日(日)是和歌山県立近代美術館主催学芸員の寺口淳治氏による講演会を行います。聴講は無料です。(入館料は必要)

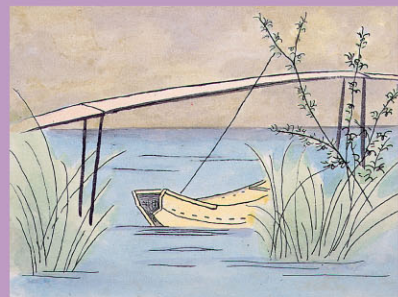


〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
TEL 63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「水郷潮来」の挿画は、竹喬の記憶にある明治時代を描いてほしいとの依頼であった。竹喬が竹内栖鳳に弟子入りしたのは明治三十六年、師は少し前に欧州視察から帰国したばかりである。

「五、六月の田植の頃になると、水郷潮来を思い浮かべた。…栖鳳先生が特に好んで題材にしておられるが、私も一度ここに写材を求めたことがある。あらい緋の着物に、赤い帯をしめて働く女は美しい。そしてこの横に広い景色を、随所で引きしめる役目をしているのであった。」

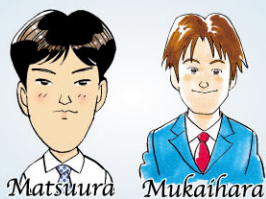
画中に人の姿は描かれていない。しかし、つながれた船が流されて枝を引く様子には、人々が立ち去った後のような印象がある。



「水郷潮来1」

小野竹喬 作  
朝日新聞「天皇の世紀」挿画  
昭和43年7月5日掲載  
13.7×18.8cm

竹喬美術館の光彩 18



発行日/平成16年6月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/まちづくり推進課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
TEL 69-2110

「二〇〇四年は、オリンピックイヤー。先日、女子バレーボールの日本代表が見事、アテネ行き切符を手に入れました。テレビの前で興奮しながら観戦した人も多いのではないのでしょうか。」

今年、日本の五輪出場選手数が過去最高になるのだとか。それだけに、メダルラッシュへの期待も膨らみます。卓球の愛ちゃん、水泳の北島、長嶋ジャパンに、日本のお家芸柔道も。

アテネオリンピックまであと二カ月。今年、どんな名場面を見せてくれるか楽しみです。(向)

## 係から

新緑の五月、カキツバタが鮮やかな紫色に咲き誇り、目を上に向ければ、風格漂うアーチ型の眼鏡橋。平成十三年に県の重要文化財に指定された吉浜の眼鏡橋に、今年もカキツバタが満開となりました。

五月十五日には鑑賞会が開かれ、お茶席も設けられました。この日、市内外から多くの観光客や写真愛好家などが訪れ、風情ある景色を眺めながら、抹茶や茶菓子に舌鼓を打っていました。

## 今月の表紙